

洋算の先駆者



福田理軒
ふくた
りけん

—1889

名を泉、通称謙之丞、鼎、惟義、主計といった。また、竹泉、理軒、順天堂などとも号した。福田金塘の実弟である。兄金塘とともに武田真元を師としたが、浪速天満宮の算額について真元と争い、日本数学史上「二田の争論」といわれた。この争論によって、真元のもとを去り小出兼政に従った。21歳の若さで大阪南本に数学塾を開き「順天堂」と号した。やがて「福田派」として日本数学史上に新しい一派を開くことになった。

彼の著書『西算速知』において「 $+$ 」「 $-$ 」「 \times 」「 \div 」の記号による加減乗除の初歩の算数を我が国に紹介した。和算の伝統を踏まえながら、時代の要請に従っていちはやく洋算を取り入れた先駆者的な役割を果たした。